

前 奨 大 連

前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
K'BIX元気21まえばし
3階

☎(027) 210-2198

地域の絆を深める広報を

願いが込められたタイトル

下川淵地区には地区自慢の広報誌があります。創刊号は二〇〇二年五月一日からでした。約二〇年間毎月欠かさず発行され、二五九号を数えます。

それまでは青少年健全育成会・社会福祉協議会・自治会連合会・自主グループ連絡協議会等の広報誌が定期、不定期に発行されていきました。それらを一本化しさらに地域の皆さんに愛着をもたれ、作り手の思いが反映するような名前が付けられ、情報誌月間「アイアイ」が誕生しました。

≡下川淵「アイアイ」に寄せて≡ 地元を知り活性化を 新鮮な情報を届ける

「アイアイ」のネーミングはアイ・私アイ・愛 アイ・目 アイ・会 アイ・合 アイ・ディア、ふれアイ、和気アイアイ、等々そんな願いが込められたものです。

私達の基本的な生活の場合は地域コミュニティであり、地域のあり方はますます大事な課題になっていきます。

前奨連理事・広報副委員長 持田 みね子

地域社会の希薄化などと呼ばれる昨今ですが、災害や高齢者問題等々住民の担う役割が不可欠です。

そんな中で絆やつながりを大切にしたい、さまざまな試みが行われています。その一つにこの「アイアイ」が背負っている役割は大きいと思います。

人の顔が見える紙面めざす



「アイアイ」は地域の様々な事柄や活動をより早く新鮮なうちに全世帯に配付することで、情報を共有し住民が地域をつくる一人としての意識がめばえます。

紙面はA3 両面ですが一面は主に地域の活動の様子で、人の顔が見え、活動がよりリアルに伝わるよう心がけています。二面は地域に特化した事柄を掘り起こし特集記事として作っています。

地域住民が地域の中で豊かに地域住民とつながっていくには、地域を知る事から始まります。

前奨連の活動

コロナ禍で二年ぶりに
総会は5月20日を予定
実践研究会に替へ事例集を作成

前奨連の年間行事は、コロナ禍のため、自粛が続きましたが、五月から新しい年度がスタートします。次年度は任期三年の委嘱年にあたり、心新たな活動が開始されます。

行事の幕開けになる前奨連総会は、書面など伝達により、五月二〇日(金)午後一時三〇分から中央公民館で二年ぶりに開催されます。式典は、総会をはじめ、市内の二八四町から選出された奨励員への委嘱状の交付式と、長年にわたり活躍され退任する奨励員への感謝状の贈呈が行われる予定です。

総会では、前奨連の中心行事の生涯学習フェスティバル、生涯学習実践研究会、前奨連セミナーなどの事業計画や人事案が審議されます。委嘱年に合わせて行われる新任奨励員への研修会は六月一四日(火)に中央公民館で行われます。

昨年の一二月に予定された生涯学習実践研究会は、コロナ禍で中止されましたが、この代案として、生涯学習推進本部と前奨連は、発表者を募り、冊子で活動を紹介する「奨励員 実践事例集」を作成し、今春に配布の予定です。全奨励員が新たな出会いを求め、一堂に会する活動の再開が待たれます。

Ⅱ 関連記事は四面に掲載します Ⅱ (広報委員会)

≡生涯学習フェスティバル≡ 9月3日に開催へ 全員で地域の姿など紹介

奨励員の全員が力を合わせて実施する「前橋市生涯学習フェスティバル」(前橋市生涯学習推進本部・同連絡協議会・県専修学校各種学校連絡協議会主催)が九月三日(土)午前一〇時から「元気21まえばし」で開かれます。会期は一日とし、密度を高めて実施します。

前奨連関係のイベント内容は、各町の現況と歴史文化の鼓動を伝える「わがまち広報紙まつり」と写真を主とした「テーマ展示」、折り紙などを使い

昔懐かしい遊びや工作を体験する「昔遊びリサイクル工作ひろば」などを中心に準備がすすめられます。

「テーマ展示」は前回同様に、町の姿を表現する「わがまち紹介」が予定されています。



町の姿を伝える「テーマ展示」

地区だより ④

コロナ禍の中で地区の

魅力と歴史などを学ぶ

前奨連理事

東地区・江田町奨励員

中川 春雄

自分たちの住む所を知る

東地区は前橋の中でも人口増加地区です(三万二千人)。自分たちが住んでいる所は「東地区」ということを知らない人も多々います。

こうした中、地区の多くの人に東地区の魅力と歴史を知ってもらおうと、コロナ禍中、次の取り組みを実施しました。

「あずまカルタ」講演会をとらうして地区のことを知ってもらう

昨年は「あずまカルタを読む」と題して講演会を行いました。今年も「あずまカルタを読む②」で十一月一日に会場参加とズーム参加の二方法で実施しました。内容は「産業と変革期の農民」①滝川と用水路開削で水田地帯となった東地区。②座繰り製糸の「共同組合」(製糸結社)化で生糸の品質向上。③変革期の農民。明治初年の五万石騒動と一八八三年の西群馬郡下の借金帳消し・引き下げ請願事件。今回は、

東の歴史を歴史的背景の中で知ってもらうのが狙い。

クイズを交えて町を歩く

チャレンジウオーキングあずま
歩いて東地区の魅力を見発見

東地区社会福祉協議会と共催(協力: 東公民館・地域包括センター東)。十一月一日から二月二十八日。マップに書かれた「チェックポイント」を巡る。チェックポイントにはチェックポイントにちなんだクイズがあり、それに答え東公民館に持っていくと抽選で記念品が当たる。チェックポイントには、地区内の史跡・寺社・石碑などを多く入れました。二八三人がクイズに答えられました(実際にはもっと)。アンケートでは六割近くの参加者が地域の歴史を知ることができた、と評価されました。

講座で学びを提供

地区内には、もっと学びたい、と思っている小中高生が多くいます。子どもたちに学びの面白さを体験できないか、と一件の実践をおこないました。小学生高学年対象・青少年チャレンジ教室「寺子屋スロー数学」(一〇月三〇日)。講師は元群馬高専教授で西箱田町奨励員の斎藤齊さん。アンケートでは「とてもわかりやすく、数学が好きになりました。今日の授業のおかげで中学校のことが少しわかりました。」数学以外にも幅を広げていけたらと考えています。

生涯学習奨励員。いま、わが町で。

活動の目標を高く持つて

地域の絆づくりを目指す

前奨連理事

粕川地区・込皆戸区奨励員

坂本 守明

コロナ感染症が終息するまで、町内の各種行事や活動が全て中止になっています。昨年末にコロナが終息したのかなと思ひ、年が明け個人の活動の制限も緩和され、明るいスタートが切れる雰囲気でした。誰もがそう思い期待したはずですが、地区の生涯学習の活動も、年末に一度、役員が集まり、今後の活動について議論をし、方向性を決めました。

年があけ、二月末から三月初旬に会合を開き、各地区の活動状況や問題点を洗い出し具体的にどんな活動を進めるか、議論する予定です。

しかし、前述したように再びコロナが猛威を奮いはじめています。今度は、デルタ株に変わり、オミクロンという感染力の強い変異株に変化してです。当然、第五波の流行時のように、各種活動にも、制限がかかります。

生涯学習の活動も会合を含めて、全て延期です。生涯学習奨励員各個人が、

活動再開時に、もっと活気ある活動ができるように、個々人で学習をしていきます。生涯学習、いや簡単に言えば勉強です。目標を高く持ち活動を進めて行きます。ただただ願うのは、コロナの終息です。このコロナが終息しないと、個々の思いを伝えることが出来なくなります。思いを伝える機会が減るといことは、人と人との絆が切れてしまいます。我々、生涯学習奨励員も含め、コロナ流行前の普通の生活に戻れることを期待します。

町内の歴史や講座を交え

広報の記事づくりに励む

前奨連理事

桂萱地区・亀泉町奨励員

吉岡 一男

わが町は世帯数六百余り、人口一三〇〇人余りの中規模の町で、町内に亀泉霊園や県立心臓血管センターがあります。

前奨連会報第八八号で、わが町が日ごろの交流を通じて結束が強く、桂萱地区市民運動会で毎年優勝争いをする等の成果を上げている旨のご報告をしました。しかしコロナ禍のため、現在は多くの行事等が中止になっております。

たとえば一月に開かれる新年互例会

や三月の自治会定期総会や四月の自治会新役員の全体会議、八月の納涼祭、九月の敬老の集いなどの主要な行事は、軒並み二年連続で中止になりました。各種スポーツ大会の多くも中止になりました。町内だけではなく、桂萱地区の一〇月の運動会や文化祭も中止になりました。

このような中で、私の属している生涯学習委員会広報部が年に四回発行の広報誌「亀泉町だより」は発行を続け

町民の平安への願い乗せ

「道祖神」の炎が高々と

前獎連理事

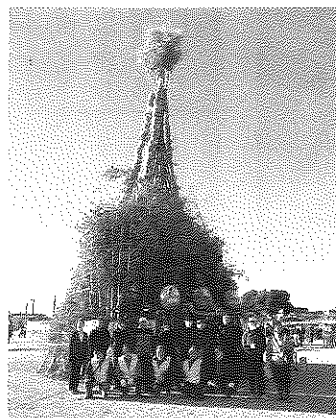
清里地区・青梨子町奨励員

田村 孝夫

一月一六日午前八時、子ども会の代表五人が道祖神の櫓に点火すると、青白い煙と共に炎が巻き上がり集まった三〇〇人を超える地域住民の歓声が一齐に上がりました。櫓の高さは一五メートル、清里方面運動場の内野グラウンド一面を占領しています。四方には大小の赤いダルマが数珠繋がり垂れ下がっています。パンパンと青竹の爆発音が加わり火はどんどん勢いを増しやがては櫓も倒れました。

道祖神祭は、小正月の伝統行事として青少年健全育成会を中心に各種団体が協力して開催されてきました。昨年はコロナ禍のため中止、今年はどうかと心配されましたが、参加者の健康状

ています。記事は広報部のお二人が中心となって作成していますが、町内行事が中止のため、それらの記事が載せられないので、その穴埋めに苦勞しています。たとえば、継続している数少ない行事を特集したり、ゴミ捨て上の注意等、ふだん載せない町内の皆さんへのお知らせを載せたりしています。また、詳しく調べられた町内の歴史を載せております。私も放送大学で天文の講義をしていたということで、夏



力を合わせて完成した高さ15メートルの櫓

態をチェックするなど感染予防対策を徹底して開催に漕ぎつけました。

開催日前々日から五人の自治会長が親竹を切りだし、前日は関係団体の役員約四〇名が九時に集合し、熟練者の指導を受けて午後までかかって小屋掛けに汗を流しました。

子供たちは、各戸を回り門松やお飾りを集めて小屋に収納し、書初め「奉納道祖神大笑」を奉納しました。開催当日は、早朝に子供たちが「道祖神が燃えますよ」と触れ回り参加を呼びかけました。

無病息災、五穀豊穡を祈る道祖神は、

の星空と冬の星空の説明記事を二度書きました。

なお、数少ない行事の中には、接触の少ない屋外で行うグラウンド・ゴルフ大会や特別養護老人ホーム・明風園にこいのぼりや七夕飾りを届けるなどの子ども育成会の活動などがあります。自治会では今後なるべく行事が実施されるように検討しているので、早くコロナ禍が収まることを祈っています。

残り火で餅や繭玉を焼いて食べると一年中風邪をひかないとの言い伝えがありますが、今年は感染防止のため会場で飲食する人はいませんでした。当日は風が少し吹きましたが、消防団の手慣れた警備のお陰で事故もなく無事に全行事を終わることが出来ました。

無病息災の願いが届き、新型コロナウイルスが一日も早く収束することを望むばかりです。

町内行事の実体験を通し

若者の心に何かを伝える

旧四中地区・若宮町三丁目奨励員

小林 寧

若宮町三丁目は、およそ北辺を飯玉神社の参道入口の東西の通り、南辺を群大養心寮北側の通り、西辺を佐久間川、東辺をみずき通りと赤城県道の間線に囲まれた四角形の町です。近隣の御町内同様、かつては製糸産業の中心地として大変賑わってありました。

町内を南北に貫く才川通に面して県営の乾蔦場がありましたが、現在は萩原朔太郎の詩碑の建つ才川緑地公園として地域住民に親しまれております。生涯学習の精神に基づき様々な行事活動が催されておりましたが、この二年間は新型コロナウイルスのためほとんどの活動を自粛することを余儀なくされております。

そんな中でも、今年度は「防災訓練」と「どんど焼き」が行われました。防災訓練は令和三年一〇月二四日に行われ、才川緑地公園に心肺蘇生、AED、初期消火の各訓練場を設営、市の防災担当者の講話のための聴衆用の椅子などが準備されました。一〇〇名弱の老若男女が集まり、真剣に講話を聴き、また各訓練に臨みましたが、例年ですと避難訓練も行われるのですが、コロナ禍で密を避けるために前年同様断念しました。

どんど焼きは本年一月一〇日にやはり才川緑地公園で行われました。事前準備、当日の櫓建てなど、自治会役員、町内各種団体会員が協力し無事に終えることができました。参加者は一〇〇名ほどでした。なたをふるってだるまの底を割り取る様子を子供たちが食い入るようにして見つめていたのが印象的でした。また竹のはぜる音、火の熱さにも驚いていました。スマホの使い方など、若い人から教えられることばかりですが、こういった実体験を通して若い人に何か伝えることができたいと思います。

「生涯学習の実践事例集」を作成

コロナ禍の中で工夫凝らす
学びの継続へ11人が発表

生涯学習奨励員が、コロナ禍の中で工夫を凝らし実施した活動について紹介する冊子「生涯学習奨励員実践事例集」

宜写真も交えて紹介しています。

「野外で作品展を行った事例」や「オンライン (Zoom) 上で絵画教室を開催

事例集」が三月に発行されました。本冊子では、

一名の奨励員さんが、令和二、三年度で実施した活動やその工夫点、活動後の手応え等を適

宜写真も交えて紹介しています。

活動の再開へ向けて

生涯学習のあり方について

前橋市生涯学習推進本部が、かつて開いた研修会で、「奨励員の手引き」と題した冊子などを参考に学習しました。コロナで活動が自粛される中で、奨励員のあり方を再認識する意味で、この資料を掲載いたします。

生涯学習の理念について

は、教育基本法の第三条で、「国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されています。

この理念に則り、本市の生涯学習では現在、本市の教育が目指す人間像である「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に社会を創る人」の

多様な人とつながりを
心豊かな地域を目指して

その力が高まり、未来につながっていくというものです。

そして、この目指す方向性を『個を伸ばす』(地域課題や市民ニーズに対応した多様な魅力ある「学びの場」の提供により、「主体的な学び」の実現を図ります)、『認め合う』(お互いの人権や個性を尊重しながら、支え合う心豊

実現に向けた教育を進めています。

これは、子どもだけでなく、保護者や高齢者など大人も含めた目指す人間像であり、一人一人が大切にされ、それぞれの力を伸ばすとともに、多様な人と関わり、つながり、協働していくことで

した事例、「遊休農地を活用して花を栽培し、またその花を染料として染色教室を実施した事例」等、奨励員さんの個性溢れる事業が掲載されています。この二年はコロナ禍により、町での恒例事業や世代間交流等の実施が難しい年となりました。しかし、試行錯誤しながら、できる範囲で事業に取り組まれた町も多くあり、「学び」

かなコミュニティを形成する仕組みを通して、家庭や地域の様々な人との関わりの中で社会性を高める支援をします。『創り出す』(個の学びやその学習成果を基に、地域の多様な主体が連携・協働し、交流することを通して、生涯活躍できる力を地域とともに育みます)、『未来へ』(ふるさとを愛し未来を拓く人材を地域で育み、それぞれの個性や特技を活かし融合させることにより、新たな価値を創り出す地域の担い手づくりを支援します)の四つのステージとして示しました。

この計画の実現を通して、今後も、市民の皆さんの誰もが、前橋で学んでよかった、住んでいてよかったと感じていただける「県都前橋教育のまち」を目指します。

(文部科学白書、

前橋市教育振興基本計画より抜粋)

を途絶えさせない工夫が本冊子からも窺えます。

終息の見えないコロナ禍ですが、本冊子が今後の町・地区での生涯学習活動や自治会活動を行ううえでのヒントとなれば幸いです。「コロナ禍での生涯学習・まちづくり」をテーマに、事業実施に至る過程等も細かくご紹介いただいておりますので、「奨励員になったけど何をしたら良いかわからない」「コロナ禍でできることが少なく困っている」という方もぜひご参考ください。

本冊子は、前奨連との共催事業として、自治会長・生涯学習奨励員の皆様へお送りしています。三月中にはお手元に届いているかと思いますので、冊子を通して他町の奨励員さんの活動事例にぜひ触れてみてください。

(生涯学習課主事 青木 滋旺)

深谷茂副会長が逝去

長年にわたり、前奨連の活動に尽力された深谷茂副会長が二月一〇日に逝去されました。深谷さんは、平成二八年から副会長を務める傍ら、広報委員会でも活動をされました。

会に寄せたご貢献に感謝を申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。

◆奨励員情報 (敬称略)

社会教育活動功労者表彰

▽2月8日付

中川 春雄 江田町 前奨連監事
林 悦実 大友町 前奨連理事